

第42回 滝川市環境市民委員会の開催結果について

開催日時	平成26年9月8日(月) 午後4時00分～午後5時30分
開催場所	滝川市役所3階 301会議室
出席状況	【委員】 出席：石川委員長、岩本委員、佐藤委員、中村委員、水戸委員、横島委員、山田委員 欠席：伊藤副委員長、春田委員、藤本委員 【事務局】 市民生活部 樋郡部長、石川次長 〃 暮らし支援課 原田課長補佐、大橋係長、畠山主事
議事内容	1. 開会 北海道電力滝川営業所長佐藤邦弘氏が、今回初めて出席されたため、自己紹介も兼ねた挨拶をしていただいた。 2. 評価報告書の作成について 平成25年度までの環境に係る取組状況に対する取組状況について、資料2-1～4に基づき説明を行った。 これに対する各委員会からの意見等は次のとおり。 【資料2-1についての意見等】 委員) リサイクル推進員を対象としたごみ処理に関する研修会の出席率は何の程度となっているか。 事務局) リサイクル推進員は現在165名となっており、その中で研修会へ出席された方は51名と全体の約3割となっている。説明会自体は、昼の部、夜の部の2部構成で実施し、欠席された推進員に対しては、研修会で使用した資料を送付した。 委員長) 3割もの人が研修会に出席するだけでも凄いことだと思う。意識の高い市民の力を借りて滝川市のごみ行政をどう進めていくのか期待しています。 委員) 以前より市長もリサイクル推進員を活用するということで話しがあったが、この活用の第一歩として、同推進員の知識を深める取組を行うことはとても良いことだと思う。 委員) 古繊維は現在どの辺で回収しているのか。 事務局) 暮らし支援課の窓口のほか、空知町に設置されている滝川市粗大センターにおいて、土・日・月の13:00～15:00まで収集を行っている。 委員) 回収場所が2か所ということで、収集量の増加のため、回収場所を増やすことも可能ではないか。 委員) 以前、消費者協会でも拠点回収を実施していたが、三番館の閉鎖とともに回収を辞めた。 委員) 古繊維の受入をする際に、一度にどのくらいの量を受け入れることができるのか。 事務局) 量に関しての指定等はありません。また、受入の基準等については、昨年4月に改定したごみガイドブックの16Pに古繊維の回収についての記載している。 委員) 古繊維の回収のほか、小型電子機器の無料回収についても適時なPRは大事だ

と思う。また、その回収場所等についてもごみガイドブックに記載していると言われればそれまでとなるが、広報や新聞等にも年に数回載せるなど、細かく周知をしたほうがいいのではないか。

委員) 説明コメントにも記載しているが、リサイクル率に関しては本当に横ばいになっていると思う。行政も今できることをしっかりとしていると思うが、数字には表れていない。また、本年度より、組成調査で割合が一番高かった「雑紙」が資源ごみに新たに組み込まれたということで、リサイクル率がどれだけ伸びるのかに期待している。

委員) 回収した小型家電は、ごみ排出量の総量に含まれるのか。

事務局) ごみ排出量が100 t あり、その中で1 k g が小型家電として回収されたとしたら、100 t だったものが99 t になるというイメージを持っていただきたい。

委員) 雑紙の回収については、収集した量をどう把握しているのか。

事務局) 古紙については、現在5 分別（雑紙・段ボール・新聞紙・雑誌・紙パック）としており、それぞれ回収量を集計している。しかし、雑紙の回収量が少ない地域に関しては、段ボールと混ぜて収集するといったこともあるため、雑紙としての回収量がはっきりと出ない可能性もある。

【資料2－2についての意見】

委員) 大樹町において、電気自動車の充電器をメガソーラー発電所横に設置していたが、滝川市においてもそうした取組を行い、メガソーラー自体の周知を図ることも考えてみてはどうか。また、充電器に限らず、市民の目に見えるような形でPRをうまく行うことができれば市民の理解も得られるのではないか。

委員長) 省エネレシピについては、現在のHPやイベントにおける周知だけでは少しPR不足と考えられることから、省エネレシピの内容のほかPR方法等、更なる周知を図るべきではないか。

委員) 説明コメントの欄の、「計画停電」という表現を「節電」という表現に変更していただきたい。

【資料2－3についての意見】

委員長) 植樹については、これから新たに植えるというよりは、これまでに植えた木を整備し、育てていくという段階に入ってきたのではないか。

事務局) 森林のメンテナンスや管理についても、当然進めていかないとならないと考えている。

【資料2－4についての意見】

委員) これから、様々なイベントを企画・運営する際には、横の連携を大事にしてほしいと考えている。また、市も団体も様々な行事を行ってはいるが、一つの環境イベントを実施するにしても、各団体だけではなく市役所の各所管においても似たような事業をやっているのであれば、協働で実施できるような枠組みを作成したほうが、イベントにもより深みが出てくるのではないかと

	思う。 委員長) 環境という文言ひとつでもかなり幅広く、必ずどこかで繋がっているものだと思う。 委 員) 今回作成する評価報告書について、大人向けだけではなく、子供向けのようなものも作り、一般市民に対してもアピールが必要ではないか。 3. その他 ・次回開催予定日について 事務局より、次回開催予定日等について説明を行った。 次回開催予定日：10月上旬～10月中旬 4. 閉会
--	---